

第三章 受戒入位

次つぎには深くふか仏法僧ぶつぼうそうの三宝さんぼうを敬うやまい奉たてまるべし、生しょうを易かえ身を易かえても三宝さんぼうを供養くようし敬うやまい奉たてまらんことを願ねごうべし、西天さいてん東土とうど仏祖ぶつそ正伝しょうでんする所ところは恭敬くぎよう仏法僧ぶつぼうそうなり。若もし薄福はくふく少徳しょうとくの衆生しゆじようは三宝さんぼうの名字なみまう猶なお聞き奉たてまらざるなり、何いかに況いわんや帰依きえし奉たてまることを得えんや、徒いたずらに所逼しよひつを怖おそれて山さん神鬼じんき神等じんとうに帰依きえし、或あるいは外道げどうの制多せいたに帰依きえすること勿なかれ、彼かれは其その帰依きえに因よりて衆苦しゆくを解脱げだつすること無なし、早はやく仏法僧ぶつぼうそうの三宝さんぼうに帰依きえし奉たてまりて、衆苦しゆくを解脱げだつするのみに非あらず菩提ぼだいを成就じようじゆうすべし。其その帰依きえ三宝さんぼうとは正まさに淨信じようしんを専もつぱらにして、或あるいは如来にょらい現在げんざい在世せいにもあれ、或あるいは如来にょらい滅後めつごにもあれ、合掌がっしょうし低頭ていずして口くちに唱となえて云いわく、南無なむ歸依きえ仏ぶつ、南無なむ歸依きえ法ぼう、南無なむ歸依きえ僧そう、仏ほとけは是これ大師だいしなるが故ゆえに歸依きえす、法ぼうは良藥りようやくなるが

故ゆえに歸き依えす、僧そうは勝しょう友ゆうなるが故ゆえに歸き依えす、仏ぶつ弟子でしとなること必ずかなら三さん歸きに依よる、何いずれの戒かいを受うくるも必ずかなら三さん歸きを受うけて其その後のち諸しよ戒かいを受うくるなり、然しかあれば則すなわち三さん歸きに依よりて得とく戒かいあるなり。此この歸き依え仏ぶつ法ぼう僧そうの功く徳とく、必ずかなら感かん応おう道どう交こうするとき成じやう就じゆうするなり、設たとい天てん上じやう人にん間げん地じ獄ごく鬼き畜ちくなりと雖いへも、感かん應おう道どう交こうすれば必ずかなら歸き依えし奉たまるなり、已すで歸き依えし奉たまるが如ごときは生しやう生しやう世せ世せ在ざい在ざい處じよに増ぞう長ちやうし、必ずかなら積しやつ功く累らい徳とくし、阿あ耨のく多たら羅らん三さん藐みやく三さん菩ぼ提だいを成じやう就じゆうするなり、知しるべし三さん歸きの功く徳とく其それ最さい尊そん最さい上じやう甚じん深じん不ふ可か思し議ぎなりといふこと、世せ尊そん已すで証しやう明みやうしまし、衆しゆ生じやう当たうに信しん受じゆすべし。次つぎには応まさに三さん聚じゆ淨じやう戒かいを受うけ奉たまるべし、第一だい一いち攝しやう律りつ儀ぎ戒かい、第二だい二に攝しやう善ぜん法ぼう戒かい、第三だい三さん攝しやう衆しゆ生じやう戒かいなり、次つぎには應まさに十じゆ重じゆう禁きん戒かいを受うけ奉たまるべし、第一だい一いち不ふ殺せつ生しやう戒かい、第二だい二に不ふ偷ちゆう盜とう戒かい、第三だい三さん不ふ邪じや婬いん戒かい、第四だい四し不ふ妄もう語ご戒かい、第五だい五ご不ふ酤こ酒しゆ戒かい、第六だい六ろく不ふ説せつ過か戒かい、

第七不自讚毀佗戒、第八不慳法財戒、第九不
瞋恚戒、第十不謗三宝戒なり、上來三歸、三
聚淨戒、十重禁戒、是れ諸仏の受持したまう
所なり。受戒するが如きは、三世の諸仏の所
証なる阿耨多羅三藐三菩提金剛不壞の仏果を
証するなり、誰の智人か欣求せざらん、世尊
明らかに一切衆生の爲に示します、衆生
仏戒を受くれば、即ち諸仏の位に入る、位大
覺に同うし已る、真に是れ諸仏の子なりと。
諸仏の常に此中に住持たる、各々の方面に知
覚を遺さず、群生の長えに此中に使用する、
各々の知覚に方面露れず、是時十方世界の土
地草木牆壁瓦礫皆仏事を作すを以て、其起す
所の風水の利益に預る輩、皆甚妙不可思議の
仏化に冥資せられて親き悟を顕わす、是を無
為の功德とす、是を無作の功德とす、是れ發
菩提心なり。